

運営システムのレベルアップ実施



トランストロン(横浜市港北区)はこのほど、昨年8月に発売したクラウド型運行支援サービス「ITP-WebService V2」のレベルアップを実施した。

同社は、2010年のネットワーク型デジタコの発売開始以来、これまでに8万台を販売。情報サービス事業推進部の清水真也氏は、「企業規模の大きさを問わず、多くのユーザーに導入いただいている。ネットを経由して使ってもらえるクラウド型のため、拡張性があり、初期導入費用も安

トランストロン 「ITP-WebService V2」

くできる点が評価されている」と胸を張る。

同氏は、「車載器から取得した様々な情報を、いかに有効活用してもらうかが重要。データをどう見せれば便利かつ分かりやすく活用頂けるのかを常に考えている」と同社のポリシーを説明。ネットワーク型の利点を生かし、「年に1、2回程度、ユーザーからの要望を細やかに反映させている」とし、「顧客ニーズに的確に対応したレベルアップを心がけている」と付け加える。

今回の目玉は、「運行コ

ンシェルジュ」機能の追加だ。「通常、富士通のデジタコでは速度、急加減速、エンジン回転、シャイロ、G、車間距離、車線逸脱などのデータを取得しているが、『何回速度超過したか』『何回急ブレーキを踏んだか』などの一つひとつのデータは単一でしか見ていなかった」と説明。新機能では、「これらのデータを複合的に、掛け合わせて見る」という。

「これまで気づかれていなかった部分に気づいていただける」とし、新たな指標で、改善のヒントを提供する。「スピードを出しが

ちなドライバーに対して、単にスピードを抑えることを指導するのではなく、急旋回や車線逸脱など、危険な挙動と一緒に発生していることが分かれば、より明確な指導ができる」。得られたデータから「安全」「経済」「サービス」の指標で分析を行い、ドライバーに対する改善ポイントも提示。画面上には女性のアイコンが表示され、女性の音声でアナウンスされる。例えば、「急ブレーキ」「長時間運転」「余裕の無い車間距離」が同時に発生したドライバーには「運転に疲れてくると、判断が鈍くなります。十分な車間距離をとり、急ブレーキを減らしましょう」とアドバイス。

また、良かった点、つまり「ほめる」ポイントも同様に提示されるのも特徴だ。

▼指導の正確性を向上

同機能の狙いは、「運行管理者の負担を増すことなく、指導の正確性を向上させること」。データの確認・分析はシステムが担い、運行管理者はその後の「指導」、さらにはドライバーとの日々の「コミュニケーション」に力と時間を割くことを促す。「指導パターンがマンネリ化しているという悩みをよく聞くが、コンシェルジュ機能の活用で、日々の指導が行き届きやすくなり、ドライバーのためにもなるはず」。

同氏は、「クラウド型のサービスなので、さまざまなパターンの蓄積により、これからさらに成長していく。ドライバー指導の効率化と正確性向上にぜひお役立ていただきたい」と語る。また、今回のレベルアップでは、富士通の眠気検知システム「FUJITSU Vehicle ICT FEElythm」との連携、冷凍機との連携も可能に。ウィンカーとバックギアの連動による警告発信や、取得画面の1クリックでの全社共有、モバイルアルコールチェッカーの測定結果を動態画面から簡単に確認できるようにするなど、細かな点でも機能向上が図られている。

同氏は、「クラウド型のサービスなので、さまざまなパターンの蓄積により、これからさらに成長していく。ドライバー指導の効率化と正確性向上にぜひお役立ていただきたい」と語る。また、今回のレベルアップでは、富士通の眠気検知システム「FUJITSU Vehicle ICT FEElythm」との連携、冷凍機との連携も可能に。ウィンカーとバックギアの連動による警告発信や、取得画面の1クリックでの全社共有、モバイルアルコールチェッカーの測定結果を動態画面から簡単に確認できるようにするなど、細かな点でも機能向上が図られている。

同氏は、「クラウド型のサービスなので、さまざまなパターンの蓄積により、これからさらに成長していく。ドライバー指導の効率化と正確性向上にぜひお役立ていただきたい」と語る。また、今回のレベルアップでは、富士通の眠気検知システム「FUJITSU Vehicle ICT FEElythm」との連携、冷凍機との連携も可能に。ウィンカーとバックギアの連動による警告発信や、取得画面の1クリックでの全社共有、モバイルアルコールチェッカーの測定結果を動態画面から簡単に確認できるようにするなど、細かな点でも機能向上が図られている。

(大西友洋)